

岩崎 明子

## パリ協定に反する 石炭火力発電所は不要！

中国電力とJFEスチールが出資した千葉パワー(株)が、蘇我地区に石炭火力発電所建設を計画しています。市民団体「蘇我石炭火力発電所建設計画を考える会」のアンケートによると、今でも空気の汚れや黒い粉じんの飛散に悩む市民が大勢いるとわかりました。またCOP21で採択されたパリ協定により、CO2を大量に排出する石炭火力発電所は国際的にも削減することとされています。

今以上に空気を汚し、パリ協定に反する発電所は不要です。5月に千葉市長から県知事へ提出する意見書に、市民の声をしっかり盛り込むよう求めました。

## 学習に困難を抱える子どもを 置き去りにしないで

読む、書く、計算するなどに困難を示す子どもがいます。LD(学習障害)と呼ばれていますが、気づかれずに「勉強のできない子」と怒られたり責められたりして、自尊心を傷つけてしまうことも多いのです。現状では早期の気づきや、適切な支援が足りていません。

子どもを教室で置き去りにしないため、教職員の理解を深める取り組みを求めました。また、鳥取県「ペアレントメンター制度」のような、同じ経験のある保護者同士で悩みを共有できる仕組みの創設を要望しました。

## 議案から

### 高原千葉村の廃止が決定

老朽化による維持管理費用の増加が見込まれること、必要性の低下と利用者数の低迷から、高原千葉村を平成30年度末に廃止することが決まりました。(みなかみ町へ約2千万円で売却予定)

廃止に至った経緯を市民にわかりやすく説明し、今後1年間は思い出の場所として同窓会で訪れてもらうなど、市民への周知を要望しました。

今後、中学校の自然教室開催は別の施設で、日程を



記念に残されている  
S48年のバンガロー

1日削減して行われるとのこと。保護者に対しての丁寧な説明や、費用面の負担増にならないための配慮を求めました。(渡辺 忍)

松井 かよ子

## 子どもの事故を防ぐには？

### なぜ事故が？

動き回る小さな子どもがいると、大人は片時も目が離せません。結果、疲れたり集中力が欠けたりして「ヒヤリ」とすることが増えます。

### 予防するには？

市では子どもの事故を防ぐために、様々な部署で注意喚起をしています。乳幼児健診等で具体例を説明したり、公園の遊具の使い方をホームページで周知したり、病院では市民講座を開催したり、消防では救命講習会が行われています。

### 今後の課題は？

これらは縦割りの印象が強く、市全体として相互連携が必要です。「まとめて一度に情報が見られるようなホームページの整備・充実」「親子が日常的に利用する施設での啓発」などの取り組みを要望しました。



なごやキッズステーション  
エレベーター前の表示

## ニア中央新幹線建設現場からやってくる？ 再生土の規制強化を！

### 再生土とは？

トンネルなど、掘削工事がしやすいように薬を注入してドロドロにした土に、石灰やセメントなどの脱水固化剤を混ぜ、再度固めてリサイクル(再生)した土のことです。土地の埋立てに利用されますが、吸水力に欠けるため、大雨などで崩落する危険があります。

### 千葉市でも独自条例を！

県条例が策定されましたが、悪臭や地下水汚染等のトラブルも懸念されるため、より厳しい本市独自条例での規制強化を要望しました。



奥が再生土の山。周辺に水がたまっている(佐倉市)